

関西学院大学新聞

2025年7月21日 第868号



■発行■

関西学院大学新聞編集部

〒662-0891

西宮市上ケ原一番町1番155号

HP: www.kgpress.jp

X: @KG_shinbun

Instagram: kg_newspaper_club

独占取材 本学OB 横山英幸大阪市長が語る

大阪・関西万博

弊部は6月4日、大阪市役所本庁舎で弊学OBの横山英幸・大阪市長（経済学部卒）に現在開催されている大阪・関西万博の話題を中心にお話を伺った。

—大阪市長としての大阪・関西万博への思い

—万博のテーマ

万博には大きな理念がありまして、「いのち輝く未来社会をデザイン」というテーマを掲げています。「いのち」というのはいろんな命があつて、それらに引き合つてもらう。そしてそれを最新のテクノロジーと一緒に未来を感じてもらおうというのが万博です。

—デジタル社会の中、今万博をする意味

シンプルに「世界が広い」ということを感じていただきたいと思つています。今SNSやインターネットで何でも見られる社会です。一方でだからこそ、その時しか感じられない貴重な瞬間、いわゆる「トキ」を、いかに高質なものとして消費していくかが非常に重要になってくると思います。

—万博で世界の国々と繋がれる意味

世界中の言語や食べ物、人々がそこにいて、自分たちの魅力を発信している。たゞ、各国レベルで見るといろんな政治状況や経済状況があります。ただ、この万博会場の中で、「世界のみんなが1つになろう」というのを、提示しながら各国が頑張ってくれている。これをぜひ感じていただきたいですね。

—今の若い世代と万博

日本で過ごしていると、少し行き詰まったりしんどくなったりすることがこれから先、皆さんあります。だけれど、本当に世界は広くて、もっと大きいところで動いているという思いを持つだけで全く目線が変わってくると思います。

—若い世代に会場に行つて世界の可能性を感じてほしいと思います。

—万博後の展望は

若い人が活躍できる大阪市や多くの人に楽しんでもらう都市でありたいなと思います。特に、イメージは若い方がウェルビーイングとして、幸せである街。若い人がこの街で暮らすと楽しいなと思える街にしていこう。

—役所や政治についてのは、

「広く満遍なく皆さんに、これは当然なんですけど、政策の戦略的に置くセンターピンとして、その若い人が幸せを感じられる街っていうのは結構重要だと思つています。そこを追求していくと若い人たちが集まってくれて、それが回りまわって、いろんな世代が生き生きしてきます。なので、例えば緑の環境、舟運、アートやナイトエンターテインメントなどの大阪の賑わいの部分を活性化させていきたいと思っています。

—大学時代

—E.S.S.に没頭した大学時代

私、割とE.S.S.の活動にも没頭しまして。いかに論理的に日本政府がとるべき政策を結論付けるかというのがディスカッションのテーマで。ディベートと違って、好きに喋れるんですけど、喋れなかったら黙っちゃうんです。でもしゃべろうと思つたら、もう独壇場にもできるんですけど、独壇場にすると、今度はあんまり相手にされなくなっていくつていう。ちょっと政治的で、面白い側面があつて、これは今に非常に活かされています。

—公務員試験勉強に勤しんだ大学後半

3年生後半から4年生ぐらいになってきたら、公務員試験に向けて行政の試験に結構没頭したので、後半からは割と勉強のイメージしかないですね。学校の図書館とかで勉強してました。行政の試験も経済学とかあったので学校での勉強が非常に活きました。

—関学大に入学するきっかけ

—父の関学生活に憧れて

きっかけは、父親が関学大出身なんです。うちの父親も同じE.S.S.に入つてディスカッションをしていました。とにかく美しい関学大のキャンパスが楽しかったつて言うのを聞いて憧れましてね。（入学してみると、やっぱり綺麗で、本当にみんな前向きで楽しかったですね。



関学柄のネクタイを締めて取材に応じる横山英幸大阪市長＝6月4日、大阪市役所本庁舎（大阪市中心部）、八島みのり撮影

—万博後の展望は

若い人が活躍できる大阪市や多くの人に楽しんでもらう都市でありたいなと思います。特に、イメージは若い方がウェルビーイングとして、幸せである街。若い人がこの街で暮らすと楽しいなと思える街にしていこう。

—役所や政治についてのは、

「広く満遍なく皆さんに、これは当然なんですけど、政策の戦略的に置くセンターピンとして、その若い人が幸せを感じられる街っていうのは結構重要だと思つています。そこを追求していくと若い人たちが集まってくれて、それが回りまわって、いろんな世代が生き生きしてきます。なので、例えば緑の環境、舟運、アートやナイトエンターテインメントなどの大阪の賑わいの部分を活性化させていきたいと思っています。

—大学時代

—E.S.S.に没頭した大学時代

私、割とE.S.S.の活動にも没頭しまして。いかに論理的に日本政府がとるべき政策を結論付けるかというのがディスカッションのテーマで。ディベートと違って、好きに喋れるんですけど、喋れなかったら黙っちゃうんです。でもしゃべろうと思つたら、もう独壇場にもできるんですけど、独壇場にすると、今度はあんまり相手にされなくなっていくつていう。ちょっと政治的で、面白い側面があつて、これは今に非常に活かされています。

—公務員試験勉強に勤しんだ大学後半

3年生後半から4年生ぐらいになってきたら、公務員試験に向けて行政の試験に結構没頭したので、後半からは割と勉強のイメージしかないですね。学校の図書館とかで勉強してました。行政の試験も経済学とかあったので学校での勉強が非常に活きました。

—関学大に入学するきっかけ

—父の関学生活に憧れて

きっかけは、父親が関学大出身なんです。うちの父親も同じE.S.S.に入つてディスカッションをしていました。とにかく美しい関学大のキャンパスが楽しかったつて言うのを聞いて憧れましてね。（入学してみると、やっぱり綺麗で、本当にみんな前向きで楽しかったですね。

第48回総合関関戦



2～5面

応援団総部吹奏楽部

華やかな演奏を万博で



7面

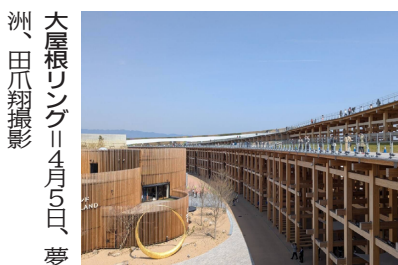
地元大阪のヘルスケアパビリオン7月6日、夢洲、田川翔撮影



—関学学生へのメッセージ

みなさんがやっている学生生活というのは大変貴重です。授業にしっかりと出て、徹底して学べることを学んでいくこと。次に友人を作つて大切にすること。大学時代の友人は、生涯の友になると思います。

—そして、クラブ活動が何かに没頭して、今しかできないことを徹底してやり尽くしてほしいですね。そこで得られたものはもちろん将来プラスになるし、その思い出は本当にいつ振り返っても楽しい思い出になるんです。あの美しいキャンパスで素晴らしい大学生活を楽しんでほしいと思います。（田川翔・越智優介）



大屋根リング4月5日、夢洲、田川翔撮影



全文はこちらから

の調査によると、大学生の約3人に1人がSNS上で他者との比較によるストレスや不安を抱えていることが明らかになった▼人は、本来幸せになるため、好きなものや興味あるものに意識を向けるものである。しかし最近では、他人の好きなものや興味あるものに意識を向けてしまいがちであるように感じる▼世界で唯一の「なりたい自分」を形作るためには、その意識を他人ではなく、自分自身に向け、好きなこと、興味あることを貫いていくことが大切なのではないだろうか。そ周りと比べず何かを目指し、時には少し休むくらいの余裕をもつ。その積み重ねがきっと自分を大事に、本音を大事にできる強さにつながっていくだろう。「倍倍FIGHT」を聴きながら、自分自身を捉え直し、世界で唯一の「自分」を形作ってほしい。



第48回総合関関戦

25勝10敗の最多勝タイ 2年連続総合優勝

サッカー部

熱戦を制し首位奪還

体育会サッカー部は5月31日にヤンマーフィールド長居（大阪府大阪市）で試合を行った。試合は関西学生サッカーリーグ第10節を兼ねた一戦であった。リーグ戦においては首位攻防戦となる今回の試合を、関学大は3-1で勝利し、関西大から首位を奪還した。前半は関学大が攻め続ける展開となった。試合が動いたのは前半22分、MF篠原駿太選手（商学部4年）が先制ゴールを決め、1-0で終了した。後半は一転して、関学大は防戦一方になる状況が続いた。そして後半32分、関西大の猛攻によってゴールを奪われ、試合は1-1と振り出しに戻った。しかし、再び集中力を取り戻した関学大が後半35分、DF山本楓太選手（商

ソフトテニス部

波乱の幕開けでペースつかめず

体育会ソフトテニス部は6月14日、西宮上ヶ原キャンパス第1フィールドで関西大と試合を行った。ダブルス7試合からなる団体戦で勝利数を競った。関学大は最終スコア2-15で敗れた。普段はシングルスに出場している選手も、今回はダブルスに出場した。チームワーク



2点目のゴールを入れた西田選手とチームメイト
5月31日、ヤンマーフィールド長居、田爪翔撮影

庭球部

奮闘も敗れる

体育会庭球部は6月7日、西宮上ヶ原キャンパス第4フィールドで関西大学と試合を行った。女子はダブルスが0-2、シングルスが0-3の合計0-5。男子はダブルスが1-2、シングルスが2-4の合計3-6。総合0勝2敗で敗れた。昨年のリベンジを目標としていた関学大。敗れたものの男子シングルスでは富田竜誠選手（教育学部2年）がフルセットの末、勝利を収めるなど、粘りのプレーを見せた。試合結果を受けて主将の堤野竜司選手（文学部4年）は「チームのレベルは上がっている」と手応えを口にしながら「現状を受け止めて、チームとして足りない部分を改善していきたい」と今後の展望を語った。（久保田創士



サーブをする庭球部選手＝6月7日、西宮上ヶ原キャンパス第4フィールド、久保田創士撮影



奮闘する櫻井選手＝6月14日、西宮上ヶ原キャンパス第1フィールド、坂根匠海撮影

て、岩崎純哉男子主将（教育学部4年）は「経験不足によるテニスボールの弾み具合やラケットの握み具合など様々なミスマッチが重なったことが敗北につながってしまった」と振り返った。今回の関関戦を含めて公式戦など、何度も熱戦を繰り広げてきた関西大に関して、「お互いに手の内を知りつくして、選手一人ひとりの対策が大事になる中、戦術面において今日は関西大側に軍配が上がった」と悔しさをにじませた。（佐藤朝陽）

スキー競技	関大
ボクシング	関大
水上競技	関大
陸上競技	関大
馬術	関大
相撲	関大
サッカー	関大
アイスホッケー	関大
射撃	関大
漕艇	関大
自動車	関大
ラグビー	関大
アメリカンフットボール	関大
硬式野球	関大
ホッケー男子	関大
ホッケー女子	関大
バレーボール男子	関大
バレーボール女子	関大
レスリング	関大
柔道	関大
重量挙げ	関大
アーチェリー	関大
器械体操	関大
アイススケート	関大
バスケットボール男子	関大
バスケットボール女子	関大
ゴルフ	関大
剣道	関大
フェンシング	関大
拳法	関大
卓球	関大
バドミントン	関大
ソフトテニス	関大
空手道	関大
ハンズボール男子	関大
ハンドボール女子	関大
準硬式野球	関大
テニス男子	関大
テニス女子	関大
エキシビション	関大
ラクロス男子	関大
ラクロス女子	関大

スケート部

名門関西大に見事勝利

体育会スケート部は8日、関西大学たかつきアイスアリーナで試合を行い、勝ち星を上げた。

試合はスピード部門、フィギュア部門の総合得点で競い合った。

スピード部門では、男女別に500m、1000m、1500m、3000mそして男女混合リレーが行われ、関学大は関西大に終始優勢で1位、2位を独占した。

続くフィギュア部門ではフロンティアクラス男女計4試合と選手権男女2試合で競った。フロンティアクラスの大塚誠太郎選手（法学部4年）がリンク全体を広く使った滑

華麗な演技を披露する川端理央選手（経済学部4年）は曲調に合わせてメリハリのある華麗な滑りで観客を魅了した。



軽やかな滑りを見せる石川選手と木南選手は6月8日、関西大学高槻キャンパスたかつきアイスアリーナ、山本一貴撮影

女子ハンドボール部

接戦を制す

体育会ハンドボール部女子は6月15日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館で試合を行い、25-24と僅差で勝利した。

試合は一進一退の展開が続く、関西大の勢いに押されつつも、粘りのセーブと果敢なシュートで4点リードした状態で前半が終了した。

後半は、奥田なつひ女子主将（商学部4年）が機転の利いたパスで味方のシュートをアシストし、チームは勢いついた。中盤、関学大は同点に追いつかれるものの、スピー

ヤーになるためにシュートも狙った」と笑顔を見せた。

ハンドボール部女子は全日

（八島みのり）

本学生選手権大会ベスト4入りを目指している。



シュートを狙う選手は6月15日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館、八島みのり撮影

卓球部

接戦を制し関学大が勝利

体育会卓球部は6月3日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館で試合を行った。男子がシングルス6試合・ダブルス1試合、女子がシングルス4試合・ダブルス1試合で勝利数を競った。男子は5勝3敗で競り勝ち、女子も3勝2敗で接戦を制した。関学大は総合8勝5敗で勝利を収めた。

男子ではシングルスで分島圭輔選手（商学部2年）が冷静なプレーで白星を挙げた。1ゲーム目は接戦の末落としたものの、続く3ゲームを連取して見事な逆転勝利を収め



サーブを打つ構えをする卓球部選手は6月1日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館、梅田芽衣撮影

た。試合後、分島選手は「気持ちを切り替えて攻めの姿勢を意識した」と語り、次戦に

向けては「ストレート勝ちを目指したい」と力強く意気込んだ。（梅田芽衣）

相撲部

強敵に挑む

体育会相撲部は6月14日、西宮上ヶ原キャンパス相撲場で試合を行い、強敵関西大学相撲部に挑んだ。

団体戦では、主将の高橋龍真選手（経済学部4年）が白星を挙げたものの、団体勝利には結びつかず、0勝3敗で敗退した。個人戦では各選手が健闘したものの白星を挙げることができなかった。

今回の試合を主将の高橋選手は「稽古外でも部員とコミュニケーションをとり団体戦での強さにつなげていきたい。今後の稽古では基礎を大切にして勝ち星を増やしていきたい」と悔しさをにじませながら振り返った。

（酒井隼平）

第48回総合関関戦

特設サイトはこちらから



男子バドミントン部

優勢に試合運び勝利を飾る

体育会バドミントン部男子は6月2日、第48回総合関関戦に出場した。試合形式は男女ともにシングルス3試合、ダブルス2試合の計10試合で勝ち点を競った。

シングルスでは中山康平選手（文学部2年）がストリート勝ちし、関学大優勢に試合が進み、シングルス3試合中2試合の勝利を挙げた。

ダブルスでは、男子主将の岡田啓太朗選手（経済学部4年）と高嶋遼選手（文学部4年）のペアが接戦を繰り広げた。

1セット目は劣勢のまま落としたが、2セット目以降は体勢を立て直し、試合は3セット目までもつれる展開に

なった。3セット目は終始ラリーの応酬となったが、息を

合わせたプレーでこのセットを制し勝ち星を挙げた。関学大はダブルスでは2試合中1試合勝利と互角の戦いを見せた。

男子部門は関学大が3勝2

敗と勝利を飾った。

今回の勝利のポイントについて岡田主将は、「チームで勝利することのみならず意識できたこと、応援団や知り合いの応援があったことなどと思います」と力強く話した。

（田川翔）



スマッシュを打つ男子バドミントン部選手＝6月2日、西宮上ケ原キャンパス総合体育館、八島みのり撮影

硬式野球部

乱打戦の末、劇的なサヨナラ勝ち

体育会硬式野球部が6月1日、西宮上ケ原キャンパス第3フィールドで試合を行った。

試合は序盤から点を取り合う展開が続いた。両者猛攻を見せる中で関学大が1点を追う九回裏、3番の大野雅生選手（文学部4年）と4番の井上慈英選手（商学部4年）が四球でチャンスを作ると、5番の國本真也選手（法学部4年）が同点適時打を放った。

その後、1死満塁の局面で8番の真鍋太一選手（法学部4年）が四球を選び、これが決勝の押し出し。11×10で関学大がサヨナラ勝ちした。

試合後、真鍋選手は「この試合はチーム全員の総合力で勝てたもので自分は結果的に

サヨナラの場面で打席に立てただけだ」と謙虚だった。

硬式野球部は春季リーグ戦では惜しくも3位に終わった。

真鍋選手は「春季リーグでは最後の方で負けてしまっただけで、悔しい結果に終わったので秋季リーグでは最後まで勝ち切りたい」と力を込めた。

（前川勇）



サヨナラ勝ちで喜ぶ選手ら＝6月1日、西宮上ケ原キャンパス第3フィールド、山須田優撮影

女子バドミントン部

流れをつかみ快勝

体育会バドミントン部女子は6月2日、第48回総合関関戦に出場した。今年は西宮上ケ原キャンパス総合体育館で試合を行った。

シングルス3試合とダブルス2試合からなる団体戦で男女ともに勝利した。女子は終始関学大を圧倒し、全試合勝利という結果を残した。2年ぶりのホーム開催に応援も熱が入り、会場は熱気に包まれた。

鋭いスマッシュや軽快な

られたが、チーム全体としてプレッシャー下でのメンタルの弱さが課題に残る。秋間女子主将は今後について、「雰囲気と仲の良さは継続して、西日本学生バドミントン選手

権大会に向けて頑張りたい」と笑顔を見せた。

（八島みのり）



スマッシュを打つ秋間女子主将＝6月2日、西宮上ケ原キャンパス総合体育館、八島みのり撮影

準硬式野球部

新チーム初陣、猛攻で快勝



打席に立つ荒井選手＝6月8日、西宮上ケ原キャンパス第3フィールド、久保田創士撮影

体育会準硬式野球部は6月8日、関西学院第三フィールドで試合を行い、関西大学に9-2で快勝した。

4年生が引退し新チームで臨んだ関学大。試合は三回裏、2死一二塁の好機を作ると打者は荒井優真選手（社会学部2年）。放った打球は外野を抜け3点ランニング本塁打となり先制点を奪った。先制

（久保田創士）

レスリング部 6勝1敗で関西大に快勝

体育会レスリング部は、6月7日、西宮上ヶ原キャンパス学生会館新館レスリング場で試合を行い、6勝1敗と大差で勝利した。

初戦には同部主将の内田哲平選手（法学部4年）が57kg級で出場した。内田選手は前半に1点を先制し、後半開始すぐに相手選手を攻め込み、2点を追加した。その後2点を取り返されたものの、3-2で初戦を制した。主将の活躍で勢いづいたチームはその後も次々に勝利を重ねた。

レスリング部は昨年、敗北を喫したが、今回の大勝で雪辱を果たした。試合後、主将の内田選手は「今までこんな



相手の隙を狙う内田選手。6月7日、西宮上ヶ原キャンパス学生会館新館レスリング場、範沢衆撮影

に大差で勝つことはなかった。そこでチームとして良い雰囲気です」と喜びを口にした。（高尾亮史）

体育会バレーボール部男子は6月7日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館大フロアで試合を行い、最終スコア0-3で敗れた。

第1セットから互いに譲らず、序盤から点差が離れないまま30点台に及ぶデュースにもつれ込む激しい接戦となった。

辻諒月選手（人間福祉学部4年）のコースに決まったスパイクや、ブロッカーの積極的な守備が光ったものの、関西大側の粘りから生まれたミスに付け込まれる形で第1



試合を終えた選手ら。6月7日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館、山本一貴撮影

バレーボール部
熱闘を繰り広げるも惜敗

セットを惜しくも落とした。続く第2、第3セットでも先

制し勢いづいた関大の優勢を崩せず、敗北となった。バレー部は今回の試合結果を糧とし、秋季リーグでの勝利を目指す。（山本一貴）

体育会バレーボール部女子は6月7日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館大フロアで試合を行った。

手に汗握るラリーが繰り広げられる中、関大は惜しくもセットカウント0-3で関西大学にストレート負けという結果に終わった。

岩城遥南選手（法学部3年）は「序盤から相手に流れをもっていられ、攻撃が気持ちよく決まらなかったことが敗因だった」と冷静に試合を振り返った一方で、「6人でボールを繋ぎ、点を取ることが意識してプレーすることができた」とプラス面についても語った。（原口光）

女子バスケットボール部

ディフェンスから点数につなげて快勝

体育会女子バスケットボール部は6月11日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館で試合を行った。関学大は84-60のスコアで勝利を飾った。

主将の前田心咲選手（社会学部4年）は勝利のポイントについて「ディフェンスから点数につなげられたことが（勝利の）ポイントだった」と話した。

また、試合でのチーム全体を点数で表すと70点と振り返った。今後の課題として、リバウンドで圧倒することと、シュート率を上げることが挙げた。前田選手は、「まだまだ皆を引っ張れるよう頑張りたい」と向上心を見せた。（渡邊暖彦）



シュートを狙う片山朋子選手（法学部2年）。6月11日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館、八島みのり撮影

体育会男子バスケットボール部は6月11日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館で試合を行った。男子バスケットボール部は、最終スコア58-72と関西大の勢いに終始圧倒されてしまい、悔しい結果に終わった。

吉本有佑男子主将（商学部4年）は「自分たちのバスケットボールを展開できなかった。リバウンドをとれず、流れをつかめなかった」と試合を振り返った。今後の試合に向けて、「チームの強みである速さを活かすためにも、リバウンドの強化と（シュートを）決めきる力をつけていきたい」と意気込んだ。（八島みのり）



シュートを狙う選手。6月11日、西宮上ヶ原キャンパス総合体育館、八島みのり撮影

男子バスケットボール部

関西大にあと一歩及ばず

関西学院大学と関西大学の体育会各部が競い合う「総合関関戦」。第48回となる今大会の本戦は、6月7日から15日にかけて西宮上ヶ原キャンパスを中心に開催された。本学は25勝10敗という成績で2年連続の総合優勝を果たし、過去最多タイの勝利数で40年ぶりの記録を更新した。

2月のスキー競技を皮切りに始まった前哨戦では、本学が13勝1敗と大きくリード。本戦では関西大学が追い上げを見せたものの、本学が優勢を保ち続けた。大会全体の勝利数の合計により、今年も関学大が頂点に立った。

本戦直前の5月31日には、グランフロント大阪・うめき

第48回総合関関戦

最多勝記録を40年ぶりに更新

た広場で前夜祭を開催。例年にはない新たな広報活動として、多くの人に大会を知ってもらう機会となった。



第48回総合関関戦星取表。7月11日、西宮上ヶ原キャンパス銀座通り、田川翔撮影



2024年度能登半島地震 現地ボランティア報告会開催

ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室は3月4日、関西学院大学2024年度能登半島地震現地ボランティア報告会を西宮上ヶ原キャンパスG号館で開催した。地域住民や学生など計58人が参加した。

「ああ関学ね」

関学大ではこれまでに計5回、延べ72人の学生が現地へ活動した。会では参加学生によるこれまでの活動の報告、認定NPO法人「日本災害救援ボランティアネットワーク（JNAD）」と西宮市社会福祉協議会、そして学生が「学生による支援の意義について」という題材でのディスカッションを行った。

地域に受け入れられた1年に

現地ボランティアに複数回参加したことのある学生は、「最初には恐る恐る参加した地域の方々が今では『ああ関学ね』といったように、関学が地域に受け入れられた感じがする」と活動報告の中で振り返った。報告会に参加した山崎天智さん（経済学部2年）は「能登半島地震現地ボランティアに参加しようと考えているが、今回参加学生の意見を聞いて不安などの気持ちが抑えられた」と話した。

関学大では2025年度も引き続き現地ボランティアを実施し、能登との交流を深めていく予定だ。
(田爪翔)

壁新聞で能登の魅力

学生が描いた地域の日常

関学大が年に数回、学生と共に活動している能登半島地震現地ボランティア。その一環として、6月に実施した第6回目の活動では、石川県七尾市の豊川地域を訪問。参加した学生たちは、現地での体験を元に、地域の魅力を伝える「壁新聞」を作成した。作った壁新聞は全5枚。それぞれが学生自身の視点で、豊川という地域の温かさや文化、そして日常の中にある価値を表現している。



壁新聞の内容は多岐にわたる。ある壁新聞では豊川を「この町は愛だ!」と大きな見出しで書き、地域の絆と愛情を紙面に込めた。別の壁新聞で

関学大が年に数回、学生と共に活動している能登半島地震現地ボランティア。その一環として、6月に実施した第6回目の活動では、石川県七尾市の豊川地域を訪問。参加した学生たちは、現地での体験を元に、地域の魅力を伝える「壁新聞」を作成した。作った壁新聞は全5枚。それぞれが学生自身の視点で、豊川という地域の温かさや文化、そして日常の中にある価値を表現している。



第5回能登半島地震 現地ボランティア

新たな形で親睦を

ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室は2月14日から16日にかけての2泊3日で、第5回能登半島地震現地ボランティアを実施し19人の学生が参加した。

学生たちは石川県七尾市中島町の新町地域、豊川地域で活動を行った。能登半島にはボランティア実施日前に到着

過去の災害の教訓生かす

神戸市が防災イベント開催

地域



イベントの様子＝4月26日、K I I T O（神戸市）、山本一貴撮影

神戸市は4月26日、27日、「レジリエンスセッション 震災と未来のこころ」をK I I T O、みなとのもり公園、新港第一突堤西側、メリケンパークの4会場で開催した。「震災30周年を未来につなぐ」をモットーに、神戸市や多数の企業などが防災に関するテクノロジーや取り組みを紹介した。以下いくつかのブースを紹介する。

神戸市危機対策課
神戸市危機対策課はLINEの「神戸市災害掲示板」を紹介した。災害の規模に関わらず、周囲の災害情報を投稿できる。また、他の人が投稿した災害情報をリアルタイムで把握でき、災害時の行動に役立てられる。

KOBEスマートシティ推進コンソーシアム
KOBEスマートシティ推

進コンソーシアムでは災害用伝言ダイヤルの「1711」の体験を行った。職員は「毎月1日と15日に誰でも体験できるのぜひ体験してみたい」と話した。

NHK大阪放送局
NHKでは残されている約8000本の阪神・淡路大震

災害当日の映像を使用した動画を9分程度上映した。職員の男性は「よく高速道路が倒れた映像など被害の様子が流れるが、住民同士の助け合いがあったということもこの映像を通して知ってもらいたい」と話した。
(今村早織・田爪翔)

関西学院大学新聞総部 広告募集中

あの時立てなかった全国の舞台へ
硬式野球部 全日本大学野球選手権ベスト16

関西学院大学新聞
登録者数100万人達成
バーレーン・ランスリョフ

▽詳しくはコチラから

広島東洋カープ黒原選手の「大学時代」と「現在」に迫る



加した。集まった約90人の地域住民とのおでん作りや輪投げ大会などにより関係を紡いだ。
(田爪翔)

Mastery for Service
羽ばたけ、世界市民

神戸市営住宅・兵庫県営住宅ほか
電気設備保全会社 畑中電気合同会社
〒653-0834
兵庫県神戸市長田区川西通5丁目107番地の8



華やかな演奏を万博で

プラスエキスポではギネス更新

応援団総部
吹奏楽部

応援団総部吹奏楽部は5月11日、大阪・関西万博で行われた「プラスエキスポ2025（関西吹奏楽連盟朝日新聞社、アド・タイセン社主催）」に参加した。当日は好天に恵まれた中、壮大な音色が夢洲を包み込んだ。同部からは新入生17人を含む43人が参加し、隊列を組んで大屋根リングの上を行進した。

プラスエキスポ2025ではギネス世界記録の「最大のマーチングバンド」に挑戦した。これまでの世界記録は1997年に「プラスエキスポ97」が打ち立てた1万1577人だ。記録のための要件は3つあり「5分以上の演奏」「400人以上のマーチング」「参加者3分の2以上が楽器演奏」だ。演奏した曲はマーチング曲の「星条旗よ永遠なれ」と立奏曲の「故郷」だ。

同部を含め全国のマーチングバンドや吹奏楽部、一般の参加者まで計1万2269人が参加し、見事ギネス世界記録に認定された。

応援団総部吹奏楽部部長の牛島里緒さん（法学部4年）は大阪・関西万博会場のシンボルである大屋根リングで演奏したことについて「部員にとって他に代えがたい貴重な経験になったのではないかと思います」と笑顔だった。

またポップアップステージ北で行われた単独ステージではコブクロ作曲で大阪・関西万博のテーマ曲「この地球の続きを」と嵐の「Happiness」を演奏した。見事な演奏を耳にした来場者が次々と足を止め、終盤には会場を埋め尽くした。聴衆からは華やかな音色に耳を傾けた。今後の吹奏楽部について牛島さんは「さらに多くの方々に私たちのファンになっていただけるよう、1日1日大切に歩んでまいります」と展望を語った。今後も聴く人々の心に輝く足跡を、自分たちの音楽で刻み続けていく。

（田川翔）



大屋根リング上で行進する部員ら＝応援団総部吹奏楽部提供

来年度から授業時間変更へ

関西学院大学教務機構は、学内ポータルサイトkwickにおいて、来年度から授業スケジュールを変更すると発表した。主体的な学びを支援する柔軟な教育プログラムの提供やICTを活用した教育への転換を進めるとして2026年度から大学・大学院（司法研究科、経営戦略研究科を除く）で施行する。

大きな変更点は授業時間が現在の100分から90分に短縮することだ。それに伴い、昼休みの時間は40分から60分へと拡大する。これまで、昼休みの時間が短く昼食時間を十分に確保できない学生が多かったが、ゆとりある時間に變更することで食堂などの混雑緩和が期待される。また、第1時限の開始時刻が現在より10分繰り下げた9時に變更となり、第5時限の終業時刻も現在より20分繰り上げた18時20分に變更する。これまで、異なっていた西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパス、

90分授業へ短縮

神戸三田キャンパスの時間割は統一する。

さらに、時間割に基づく対面授業の週数は現在の14週から12週に短縮する。大学設置基準等で定められた授業時間数に対する不足分の授業については、オンデマンド型のオンライン授業等を活用し補う形をとる。この狙いについて教務機構は「留学、海外研修、資格試験・検定試験、インターンシップなどの取り組みを推進」するためとしている。また、新入生がスムーズに大学生活に移行できるように、各学期の授業開始前に1週間程度「スタートアップ期間」を設け、原則初回授業はオンデマンド型で実施する。

関学大で90分授業が採用されるのは2020年度以来6年ぶりとなる。コロナ禍以降、全国的にICT教育を活用した授業時間の見直しが進んでいる。（山田結大朗）

音楽×防災で伝えるイベント

甲子園駅前で音楽祭開催

2025にしのみや音楽祭（略称MIYASON）が5月25日、甲子園駅前であった。

関学生はヒューマン・サービス支援室、西宮市社会福祉協議会、認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク（NVAAD）と共に「阪神・淡路大震災から30年大学生による防災企画コーナー」というブースを出展した。

ブースでは関学生が発案した「防災リュックの中に入れるべきもの」のイラストを個数制限がある中で選び、用紙に貼って考えてみるという模

擬作成体験があった。参加した西宮市在住の男性は、「実際に作るのとしたとき、運べる重さを考えながら作ったので難しかった」と話した。

音楽ステージでは、西宮にゆかりのあるアーティストが登場した。神戸発の防災音楽ユニットのBloom Worksは、関学生と能登半島地震や災害用伝言ダイヤルについてなど災害・防災にまつわる対談を行い、多くの人は耳を傾けていた。

参加した赤川倫都さん（経済学部2年）は「ステージでは緊張したが、関学が行って



大盛況の防災ブース＝5月25日、甲子園駅前（西宮市）、田川翔撮影

「社会をより良く変える」大迫めぐみさん

大迫めぐみさん

大迫めぐみさん（修士課程1年）は、人間福祉学部で学び、卒業後は他大学大学院の修士課程で社会福祉を研究している。

関学大での3年次と4年次に福祉施設で取り組んだ実習もきっかけとなり、大迫さんは司法福祉の分野に興味をもった。司法福祉とは、非行や犯罪行為をした人や被害者への支援などのソーシャルワークである。

ソーシャルワークとは、人々のウェルビーイングを高めることなどを目指すとともに、人々と構造、社会に働きかけるものである。ソーシャルワークには、ミゾ・メゾ・マクロの三つのレベルがある。

学部時代に執筆した卒業論文も司法福祉の分野を選んだ。テーマは、「保護観察対象者が直面する困難」だ。保護観察とは、保護観察官と保護司が、社会の中で生活を送っている対象者に、指導と支援を行うものである。現在は保護観察対象者に居住や就



大迫めぐみさん＝本人提供

学部時代に執筆した卒業論文も司法福祉の分野を選んだ。テーマは、「保護観察対象者が直面する困難」だ。保護観察とは、保護観察官と保護司が、社会の中で生活を送っている対象者に、指導と支援を行うものである。現在は保護観察対象者に居住や就

大迫さんが研究を続けたいと思った理由は、マクロレベルでのソーシャルワークに取り組むためだ。「目の前にいない方や潜在的な方も含めて、社会をよりよく変えていきたい」と力を込めた。

（今村早織）

総代会で関学生協を決める

関学生協総代会開催

生活協同組合（以下関学生協）は5月21日、西宮上ヶ原キャンパスの学生会館新館生協イベントルームで第92回通常総代会を開催した。

総代会は関学生協の最高議決機関であり、1年間の事業報告や役員決定を行う。総代会は役員と組合員の代表である総代が参加する。

開会式後、事業報告や議案の提案に次いで意見交流を行う機会が設けられた。内容は「関学生協が販売するべき品はがつつり系かヘルシー系か」というもので参加者間で

共有・集約後、全体に発表した。集約の結果半々程度に割れる拮抗をみせた。

今回の総代会は議案の採決を反対無しの賛成多数で決定した。新理事として任命された越智優介さん（法学部3年）は挨拶で「より活気ある生協の実現に向けて貢献していく所存です」と展望を話した。

関学生協学生委員会の男子学生は「意見交流で話した内容がちゃんと回答されて自分らの意見が反映されるのを感じた」と総代会の意義を話した。（田爪翔）



話し合いをする総代ら5月21日、西宮上ヶ原キャンパス学生会館新館生協イベントルーム、越智優介撮影

関学大リアルタースククラブ

定時総会・懇親会開催

KGリアルタースククラブが5月29日、梅田スカイビルステラホール（大阪市北区）3階で第37回定時総会・懇親会を開催した。クラブ会員約150人が参加した。

KGリアルタースククラブの上田武志会長は、冒頭演説で「Mastery for Service」は最初から奉仕ありきの練達ではなく、自身の仕事の練達をしてこそ、それが結果的に他者や社会への奉仕になる」と力を込めた。

その後、クラブ会員は思い出話に花を咲かせ、それぞれの仕事について関連にコミュニケーションを取っていた。（前川勇）

KGリアルタースククラブは昭和60年代に不動産業に勤める卒業生が、同業者の同窓生と交流するために設立した。

KGリアルタースククラブの最大の特徴は、不動産業に役立つビジネスや、不動産に関わるスキルの向上を会員に広めている点だ。また、会員は現役の司法書士や不動産業に勤める人など、現役世代が多く、若手も積極的に参加している。

クラブ会員の東野孝彰さんはこの同窓会の魅力について、「幅広い年齢層の同窓生とのつながりが仕事に活かせる点だ」と話した。（前川勇）



KGリアルタースククラブ定時総会・懇親会の様子5月29日、梅田スカイビルステラホール3階、久保田創士撮影

ボランティアについての理解を深めよう

ボラリーグ開催

ヒューマン・サービス支援室学生コーディネーター（学生CO）は6月23日から27日にかけて、ボランティアについて理解を深めるための企画「ボラリーグ」を開催した。

ボラリーグでは有名テレビ番組「ネプリーグ」のトロッコアドベンチャーを模した2択問題形式で、ボランティアに関する問題が20問出題された。内容は「ボランティア元年は1995年？2011年？」や「共同募金に募金した時にもらえる羽は本物？偽物？」など難易度さまじい。

また同時開催の図書館前



クイズを出題する学生コーディネーター＝6月26日、吉岡記念館、田爪翔撮影

参加した瀬戸勝斗さん（法学部3年）は「募金の問題なども元から知識があったとはいえ、普段から意識していないと忘れてしまっていた勉強になった」と充実の表情を浮かべた。

学生COで本企画実行委員の男子学生は企画の今後として、「第一回ということでも完全燃焼な部分があり、そこが反省なので次回のイベントではこの経験をつないでいきたい」と次の企画への意欲を見せた。

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBILE SCHOOL
SAS
SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.pcn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP
QRコード